第 69 回　大阪府青少年読書感想文コンクール
　小学校低学年の部　特選
　なにかスポーツでもやればいいのに
　池田市立北豊島小２年　松本岳さん

「なにかスポーツでもやればいいのに。こんなにせが高いんだから。もったいない。」ぼくがまわりの人から何回も何回も言われてきた言ばだ。ぼくは二年生の中で一ばんせが高い。八さいだけど足のサイズはもうお母さんと同じ。「大きいね。」っていう言ばはうれしいけれど、「スポーツしないのはもったいない。きっとスポーツせん手になれるよ。」って言われるとなんだか心がもやもやする。

ぼくもしゅ人公のきつねと同じで絵をかくことが大すきだ。外で体をうごかすことよりも、すきなキャラクターや生きものの絵をかいている時の方がずっと楽しいし、ワクワクした気もちになる。

このお話を読んで、絵をかいて楽しい時間をすごしているだけなのに、まわりのい見が気になってしまうきつねの気もちがよく分かった。きつねは自分では上手にかけたと思っていた絵をやまねこやあひるに「へたくそ。」や「もっとうまくかける。」と言われ、心がきずついたと思う。自分では自しんまんまんなのに、「もっとうまくかける。」とまわりから言われると、もう絵をかきたくなくなるにきまっている。

ぼくだって友だちとスポーツやおにごっこをすることは楽しくてすきだ。でも、ぼくのことを見た目しか知らない人に「もっとスポーツをしたらいいのに。もったいない。」と言われるとますますやりたくなくなる。きつねと一しょだ。

でも、きつねがうさぎに元気をもらったように、ぼくにも自ゆうちょういっぱいにかいた絵を「上手だね。」とたくさん花丸をしてほめてくれる先生や、ぼくがかいた絵を「すごいね。」とへやにかざってよろこんでくれるかぞくがいる。ぼくのことをおうえんしてくれる人と「自分は自分。それで、いい。」と思う気もちを大じにしたい。そして、よろこんでくれる人のために「ぼくが絵をかかないともったいない。」そう思った。（「それで、いい！」礒みゆき／ポプラ社）